

基本的生活習慣を身につけ、よりよい人間関係を築くための学級経営 ～ 学校生活のきまりを通して～

宜野湾小学校教諭 渡久山 みゆき

テーマ設定の理由

国際化、情報化、人間関係の希薄化とめまぐるしく変化する現代社会の中で、学校現場では学級崩壊や不登校、モンスターペアレントなど教育的課題が山積し、問題解決に向けて保護者や諸関係機関との連携、教師の指導力向上のための研修等いろいろ取り組んでいる。

これからの教育は、このような社会に対応し自立できる人間の育成・人間性・社会性を養う教育が重要であると考え、特別活動は「なすことによって学ぶ」という集団による活動を通して、自主的・実践的な態度が重視されている。

学級の実態として、遅刻をする子（10%）朝の挨拶をしていない子（30%）で、受け身や支持待ち傾向の子もいて気になっている。この背景には、基本的生活習慣が形成されていない事や、教師のかかわり方、子どもたちの目的意識、行動様式が明確にされていなかったり子ども同士のコミュニケーション能力の欠如等が考えられる。

2年生は、発達段階を考えるとまだまだ未熟である。低学年は、基礎作りの段階であるので基本的生活習慣の定着を図ることが非常に重要である。

そこで、学校生活のきまりを通して、生活態度をふりかえらせ、目的意識や行動様式を理解した活動をすることにより、基本的生活習慣が身につけ、よりよい人間関係ができる自主的・実践的な態度が育つであろうと考え、本テーマを設定した。

研究目標

生活規律を身に付けさせる方法やよりよい人間関係のあり方について研究する。

研究仮説

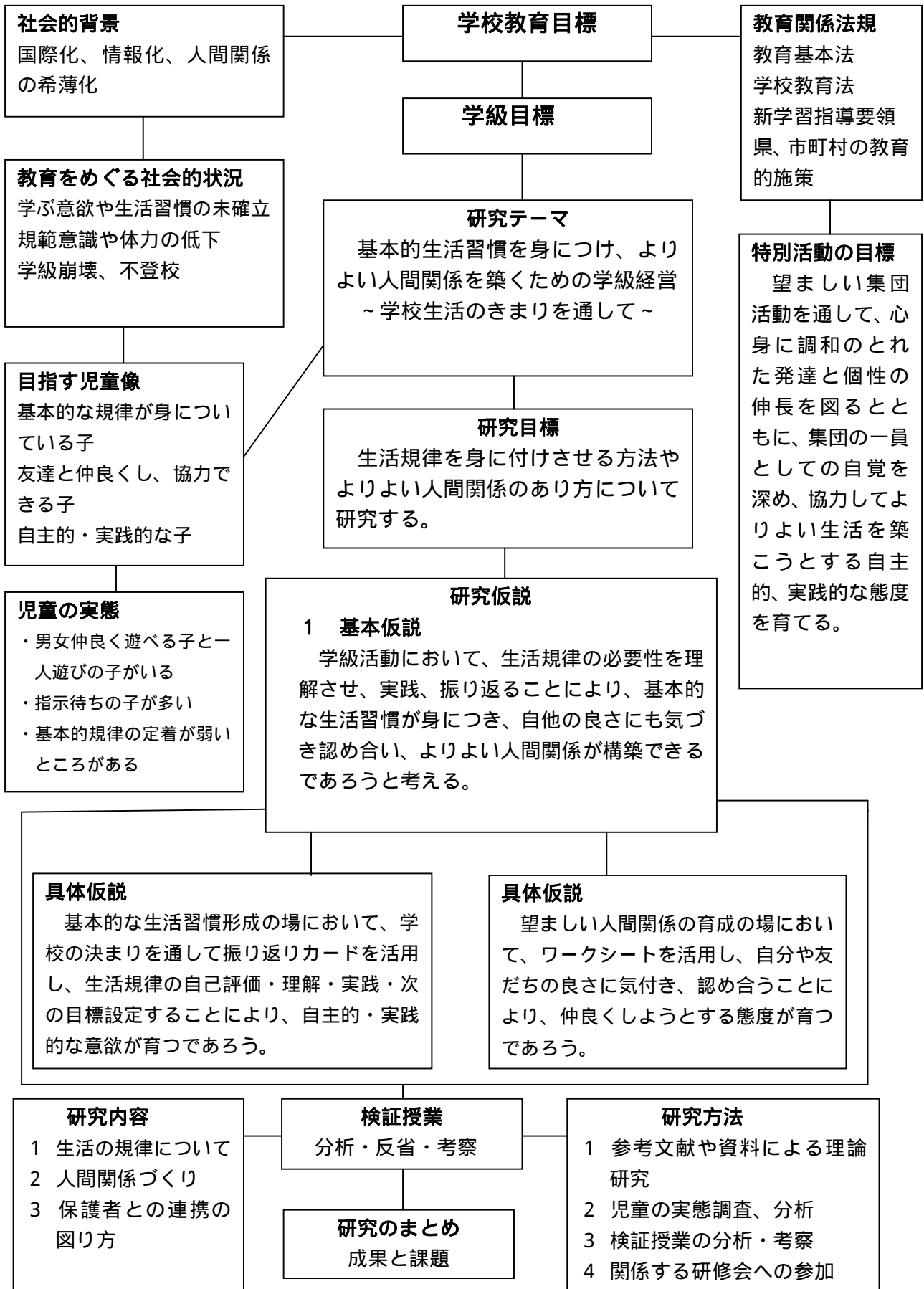
1 基本仮説

学級活動において、生活規律の必要性を理解させ、実践・振りかえることにより基本的な生活習慣が身に付き、自他のよさにも気づき、認め合い、仲良くしようとする人間関係が構築できるであろう。

(1) 具体仮説

- ① 基本的な生活習慣形成の場において、学校の決まりを通してふりかえりカードを活用し、生活規律の自己評価・理解・実践・次の目標設定することにより、自主的・実践的な意欲が育つであろう。
- ② 望ましい人間関係の育成の場において、ワークシートを活用し、自分や友だちの良さに気づき、認め合うことにより、仲良くしようとする態度が育つであろう。

研究の全体構想図



研究内容

1 生活規律について

(1) 規律とは

規律とは、広辞苑第四版によると、「人の行為の基準となるもの」と説明されている。そして、基本的な生活習慣とは、成田國英は「日常生活を安全で、快適に過ごしたり、周りの人との望ましい関係を維持し、発展させるために、個人生活や社会生活を営む上で、一人ひとりがどうしても身につけておくことが必要な行動の仕方であると考えられる。」と述べている。つまり、私たちの毎日の生活の中で繰り返される無意識な行動が、きちんとした規律を身につけていくことで、気持ちのいい生活ができ、地域社会とのつながりも円滑なものになっていくと捉えることができる。

(2) 基本的な生活習慣を身につける必要性

基本的な生活習慣の形成については、県の平成19年度「学校教育における指導の努力点」の一つに取りあげられている。また、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の「審議経過報告」(平成18年2月13日)によると、「子どもの学ぶ意欲や生活習慣の未確立、後を絶たない問題行動、規範意識や体力の低下など、教育をめぐる社会状況には深刻なものがある」と述べている。生活の乱れが、学ぶ意欲や態度の低下となっているのではないかと考える。

2007年4月に実施された全国一斉学力テストの結果からも、基本的な生活習慣と学力の間に密接な関連性が示され、国立教育政策研究所の調査でも、朝食・睡眠・読書習慣などが身につけている子どもは、学力、テストの得点が高い傾向にあるという結果もでてきている。

本校でも、基本的な生活習慣の定着に向けて、児童会や6年生を中心に挨拶運動に取り組み、下級生の中にも挨拶する子が増えてきている。学級でも、自分から進んで挨拶できない子がいるが、相手が挨拶すると挨拶を返してくれるようになってきた。挨拶できるのにやらない子やこの場面で挨拶することをわからない子もいたりする。

そのためにも、基本的な生活習慣を身に付けさせることは学校生活の充実につながる大切なものだと考えることができる。

(3) 基本的な生活習慣を身に付けさせるためには

学習指導要領によると「学校における指導の場としては、特別活動における学級活動の時間が考えられる。しかし、学級活動に充て得る時間にも限りがあるから、年度の途中で偶発的に発生する問題をすべて学級活動として取り上げるのではなく、朝や帰りの話し合いの時間などを活用して随時に指導するなどの配慮をすることが大切である。」と記されている。

学級としては、学校の決まりを通して自己評価させ、次の目標設定をし達成できるように生活態度をふりかえる取り組みをしていきたい。

また、家庭で身につけてほしいところや学校で身につけたいところの連携を重視し、相互理解を深めながら進めていくと定着に結びつくのではないかと考える。

(4) 基本的な生活習慣の内容とは

織井道雄によると発達課題とは、「人間が心理的に健康な生活を営み続けるため、それぞれの成長段階において、学習したり身につける課題をいう」と述べている。ハヴィガーストは発達課題を次のように分類している。また、教育創造研究センター所長高階玲治氏は以下のように「発達段階に応じた基本的な生活習慣の形成」表2で記している。

表1 ハヴィガーストによる発達課題

乳幼児期	0～6歳	歩行、固形食摂取、会話、排泄の仕方、性差、生理的安定、単純な社会的・動物的概念、両親・兄弟などとの情緒的な関係、善悪の区別、良心。
児童期	6～12歳	普通の遊びに必要な身体的技能、成長する生活体としての自己に対

		する健全な態度、友人との仲間関係、性役割、読・書・算の基礎的 技能、日常生活に必要な概念、良心・道徳性・価値判断の尺度、人 格の独立性、社会の諸機関や諸集団に対する社会的態度。
青年期	12～18歳	同年齢の男女との新たな関係、適切な男女の社会的役割、自己の身 体的特徴・役割の受容。両親や他の大人からの情緒的独立、経済的 独立についての自信、職業の選択と準備、結婚と家庭生活の準備、 公民としての必要な知識と態度、社会的に責任のある行動の希求と その遂行、行動の指針としての価値や倫理の体系。
壮年期	18～30歳	配偶者の選択、配偶者との情緒的生活、育児、家庭管理、職業生活、 社会的責任の負担、気心のあった社会集団の発見。
中年期	30～55歳	成人としての公民的・社会的責任の達成、一定水準の経済的生活の 確保・維持、自立する青少年への援助、余暇活動の充実、配偶者と の人間的な結合、生理的・身体的変化への適応、老齢の両親への適 応。
老年期	55歳～	身体と健康の減退への適応、隠退と減収への適応、配偶者の死への 適応、同年齢の人々との情緒的關係、社会的・公民的義務、身体 の衰退に対応した生活の準備。

表2 発達に応じた基本的生活習慣の形成

内容		低学年	中学年	高学年
1 生命尊 重、健康 安全に関 すること	(1)身体や衣服の清潔	身体を清潔に保つことの必要性や清潔な身なりをすることによっ て、互いに気持ちよく生活できるようにする。		
	(2)洗顔、歯磨き	洗顔、歯磨きを励行する。		口の中の汚れの 自己評価を通し て歯と健康につ いて理解する。
	(3)交通及びその他の 安全	安全のきまりを守っ てそれを実践する。	身の回りの危険に気 付いて安全な行動が できるようにする。	自分の安全だけ でなく、友達や下 級生の安全にも 役立つことがで きるようにする。
2 規則正 しく、き まりよい 生活に関 すること	(1)物、金銭の活用 及び自他の物の 区別	自分の物と他人の物 との区別や、公共物と の区別について知り、 物を大切に使う。	物や金銭の価値を正しく知り、計画的に 活用する。	
		父母への感謝、働くことの意義に気付いたり、積極的に仕事の手 伝いを経験する。		
	(2)時間の尊重	決められた時刻を守 る。	時刻を守り、時間を有効に使うことがで きる。	
	(3)身の回りの整理 整とん	身の回りの整理整とんをする。		自他の立場や便 利さを考慮して、 物を整理する。
(4)規則を守る	きまりを守る。	きまりや規則の意義を知って進んでこれ		

			を守るとともに、必要に応じてそれを改善する。	
3 礼儀作法、社会生活に関すること	(1)挨拶	日常生活における挨拶を正しくする。	時と場に応じた挨拶を正しくする。	心のこもった挨拶大切さを知る。
	(2)言葉づかい	尋ねられたことや相手の話の内容を受けてはっきり話す。	適切な音量や速さで、相手やその場の状況に応じて、丁寧な言葉を使う。	日常よく使われている尊敬語に慣れるとともに、正しい言葉遣いで話す。
	(3)食事の作法	仲良く、行儀正しく食事する。	食事の作法を身につける。	正しい食事の作法に慣れ、楽しい雰囲気を作り出すことができる。
	(4)身だしなみ	清潔できちんとした服装ができる	活動しやすいことや、その場にふさわしい服装ができる。	

(5) 家庭との連携

成田は、「基本的生活習慣というものは、普遍的にどこの家庭でも受け入れられる要素を選び出すものであって、それぞれの家庭の事情や流儀にてらしても矛盾しないものである筈である。」と、述べている。ここでは、学校の決まりである「よいこのおこないとみなり」から学級に必要とする決まりを抽出して家庭との連携をすすめていきたい。

以下は「家庭との協力を生かす生活習慣の指導」を参考にまとめてみた。

表3 発達段階に応じた基本的生活習慣の指導一覧表（低学年の重点指導一覧表）

項目	重点目標	役割分担		
		学校	家庭	社会
身辺自立	一人で素早く衣服の着脱ができ、たたむことができる。 みんなと同じ速さで食事ができる。 自他の持ち物の区別、整理整頓をする。			
健康生活	歯磨き、うがいの習慣を身につける 温度に合わせ、衣服を調節する。 テレビ番組を選択し、目を守る。			
安全生活	交通ルールを守り、事故を防ぐ。 友人と危険な遊びはしない。 不審者には近づかない。(いかのおすし)			
家庭生活	学校生活の連絡や報告を正しくする。 お手伝いを分担し、責任を持って行う。 留守番の仕方がわかる。			
社会生活	礼儀正しい態度ですごそうとする。 モノレール、バスの車内では、迷惑な行いをつつしむ。 公共物を大切に扱おうとする。			
対人行動	日常生活の挨拶、返事ができる。 たくさんの友達と仲良くする。 不審者に対しての安全な行動がわかる。			

道徳性	善悪のけじめをつけ、嘘をつかない。 誰に対しても親切な気持ちを持つ。 つらいことに耐えて励む。	○ ○ ○	○ ○ ○	
生活行動	人の話を正確に聞き取ろうとする。 仕事を最後まで仕上げる。 失敗を何度も繰り返さない。	○ ○ ○	○ ○ ○	

2 教師と児童、児童と児童のよりよい人間関係づくり

小学校学習指導要領では、「日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」と示している。すべての教育活動の基盤として、お互いの信頼関係を築くことが大切だと考える。

江川玫成は、「特別活動の理論と方法」改訂版の中で、望ましい人間関係の条件を七つあげている。

表4 望ましい人間関係の7つの条件

相互理解	お互いの性格特徴、能力・特技・興味・関心・趣味・価値観・身体的特徴などをはじめ、相手に関するさまざまなことを知ること。
相互尊重	相手の存在自体を無条件に受け入れる。長所・個性や自由を認める、約束を果たす相手の生命を大切にする。不当な迷惑をかけない、嫌がることを言ったりやったりしない、感謝の気持ちを表す。好意の押し付けをつつしむ等、相互に敬愛の念を持つ。
相互信頼	お互いが相手の言葉や行動を誠意から発したものであるとして疑うことなく信じあえる、なにか相手に頼む際に安心して頼むことができる等。
相互援助	お互いに相手から頼まれれば嫌がらずにやってあげる。相手の困った様子に気付いたら自発的に援助の手を差し伸べる。直接援助の手がさしのべられないときは励ましの言葉や助言・忠告の言葉をかけてやる等。
協力	みんなで決めた目標に向かって、役割分担をしたり、協力し合って取り組んでいくこと。これは、好むと好まざるにかかわらず、集団の一員としてのいわば義務である。
切磋琢磨	仲間同士がお互いの欠点や誤りを直し合って相互の向上を図り、いい意味でのライバル意識をもって頑張ること。
公正な競争	自分自身に備わった諸条件（精神身体的能力をはじめ、自己の所有しかつ自己の権利で利用できる一切の手段-知識・技能・金銭・所有物など）によって、しかもルールにのっとり、一生懸命に競うこと。

また、江川玫成は教師と児童の望ましい関係として、「教師は、相互信頼関係をつくる」、「相互尊重の信頼関係をつくる」、「相互理解を深める」と述べている。授業を中心とした学校教育活動全体を通して、一人ひとりを見つめ、理解してあげる。そして、一人ひとりのよさを伸ばし、学級全体にも紹介する。理解されているという安心感を持つことによって、自分というものに自信が生まれ、日常生活にも向上心と仲間意識が自然とできてくるのではないかと考える。また、自信をもつことによって、自己肯定感が生まれ自主的な態度や友だち関係もさらに充実したものになり、よりよい人間関係ができると考える。

3 保護者との信頼関係づくりと連携のあり方

(1) 信頼される教師とは

平井文雄は「新しい学級の条件」の中で、「一人ひとりの子どもを理解し、その言動の背景にあるものの見方や考え方など、内面的なものに十分留意し、子どもの行動を押し出しているものを把握することである。」また、「健康で精神的に安定していること、精神面の健康は明朗快活となって現れ、周囲に明るさとさわやかさをもたらす。資質として、使命感、誠実さ、責任感も大切であるが、教師の人間性は、健康で明るいことが根幹である。そして、子どもへの温かい接し方、公平で、どの子にも分けへだてない愛情である。」と述べている。

子どもを理解するということは、子どもをしっかり見つめ、関わってあげることだと捉える。しっかり見つめていないと内面的なものは把握できない。見ているようで、実は見ていないということもあったりする。教師が、一人ひとりを認めてあげる関わり方をすると子どもも安心して学校に登校し、学校の出来事を家庭で話す場面が多くなり、親子で会話する機会が増え話題が広がることで親子関係も深まり、教師ともいい関係が育ってくると考える。

また、常に教師自身が子どもの目標となれるように明るく輝いて、前向きな姿勢でいると子どもにも伝わり、やる気が出て楽しい学校生活がおくれるだろうと考える。

(2) 連携の必要性

平井文雄は、「子どもは家庭で生まれてしつけられ、地域で育ち学校で学ぶ。家庭、地域、学校が子どもをよりよく育てるために力を合わせることが大事である。そして、どんな変化があろうとも心の豊かさを醸成する基盤は各家庭でのしつけである。」と述べている。

これは、子ども達がうまく学校生活に適應していくためには、教師だけの頑張りだと限界があるが、家庭との協力関係がつながっていると、子どもも安心し、学級での生活が楽しくなり充実した学級経営ができるのではないかと捉え、学校として、あるいは、学級として取り組んでいることを家庭に知らせたり、学校でできない部分を家庭で協力してもらうことによって信頼関係が深まるであろうと考える。

(3) 連携の方法

これまでの実践として、学校だより、学年だより、学級通信、保護者会、授業参観、学年行事、学校行事、メモ日記、電話、保健だより、校長講話、話し合い等がある。

本研究では、学級通信を通して学級の様子、学習内容、子ども一人ひとりの頑張っている様子を伝え、さらに各家庭からの声を紹介することで、情報の共有もでき、我が子だけでなく学級の子どもたちをも温かく見つめ、見守ってくれらると考える。

検証授業

学級活動指導案

日 時：平成20年1月17(木)(2校時)

学 級：宜野湾市立宜野湾小学校2年3組

男子17名 女子15名計32名

授業者：渡久山 みゆき

指導講師：玉 城 時 子

1 題材名 「きまりよい生活習慣と友だち関係のあり方」

第3章(イ)基本的な生活習慣の形成(ウ)望ましい人間関係の育成

2 題材のねらい

- (1)学校生活における規律の大切さを知り、自分自身の望ましいあり方について考えさせる。
- (2)自他のよさに気づかせ、認め合い、仲良く協力する態度を育てる。

3 題材設定の理由

学級が集団生活の場として円滑に機能していくためには、生活規律の確立とよりよい人間関係を築くことが重要な基盤になっていると考える。そのためには、自分自身の生活のあり方や他者とのかかわりに気づかせ自分自身を高めようとする自主的・実践的な態度を育てる必要がある。

子ども達は、4月に学級のルール「あたりまえだけどとても大切なこと」をつくり、登校から下校までの過ごし方をきめて活動をしてきた。80%以上の子は、学級のルールを守り、静かに席について待つことや話をしっかり聞くことができる。

しかしグループ活動や集団活動中に、自分の考えを無理に通そうとする子や意見が聞き入れられず反発する子もいる。また、遅刻をする子や学習に必要な材料などを準備しない子もいる。原因として、基本的な生活規律が定着していないことや協力心にやや欠ける友達関係も考えられる。

このことから、生活規律の必要性や内容を振り返らせきまりよい行動ができる態度の育成、他者との肯定的なかかわりができるようにすることが大切である。このような自己基盤を確立することによって、友だちとのよりよい関係が生まれ、諸活動にも協力して取り組める活気のある学級づくりができるであろうと設定した。

(1) 児童観

ほとんどの子が、挨拶、時間、聞く態度の項目では、達成率が90%を占めており習慣化されてきていることがわかる。これは、学校全体で取り組んでいる成果が現れていると思われる。整理整頓においては、机の中やロッカーの整理整頓があまりできていない子は、身の自立が確立できておらず、ものの出し入れやしまい方に時間がかかっている。ものの置き場所がまだ固定されていないためだとも考えられる。

また、言葉遣いの「さんづけでよぶことができる」については、男子は名前でよんだり女子はニックネームでよんだりする子が多い。そのため、少し誤解を招く原因となる場合もあるので、やはり「～さん」で呼べるようにする必要があると考える。

(2) 児童の実態

① アンケートの結果

平成19年12月21日 生活アンケート結果

2年3組

番号	具体的な行動	評価	人数	番号	具体的な行動	評価	人数
1 挨拶	① 自分からすすんであいさつできる。	いつもやっている ときどきやっている あまりやっていない	18 13 1	4 聞く態度	話をしている 人の顔をみて きくことができる。	いつもやっている ときどきやっている あまりやっていない	22 9 1
					最後まで話を聞くことができる。	いつもやっている ときどきやっている あまりやっていない	25 6 1
2 時間について	① 8時10分までに登校している。	いつもやっている ときどきやっている あまりやっていない	26 5 1	5 整理整頓	履物は、靴箱にきちんと整頓できる。	いつもやっている ときどきやっている あまりやっていない	28 2 2
					② ベルの合図を守って、しずかに待つことができる。	いつも守っている ときどき守っている あまり守っていない	22 10 0
	使った道具はきちんと片付けることができる	いつもやっている ときどきやっている あまりやっていない	26 5 1				
3 言葉遣い	① ていねいなことばづかいができる。(オアシス) ねがいしますりがとうございませすつれいしますみません	いつもやっている いる ときどきやっている あまりやっていない	17 14 1	6 給食について	すききらいなく食べている。	いつも食べている ときどき食べている あまり食べていない	10 18 4
					② さんづけでよぶことができる。	いつもやっている いる ときどきやっている あまりやっていない	1 18 13

(3) 指導観

生活規律の面においては、その必要性や内容・行動様式を理解させないと実践化はできない。そのためには学校生活の決まりを理解させ、また学級内において必要な決まりを話し合い規則正しい学校生活が送れるようにすることが大切である。

人間関係においては、一人ひとりの自己肯定・自尊感情を育成し、安定させることが大切である。それは、他者から受け入れられると自分に自信と誇りが持てるようになるからである。他者のよさに気づき認め、肯定的な関係を築く事が大切である。

手立てとして、学校生活の決まりである「よいこのおこないとみなり」から学級の実態アンケートを実施し、課題となる項目はふり返しカードを使い自己評価させる。そして、次の目標を設定させ、継続を図りながら意識して行動ができるようにしたい。また、相互のよいところみつけカードに書かせることで、自分の頑張りや友だちの頑張っているところを認め合っていくようにしていく。

このように、ふりかえりカードを活用し自分をみつめながら友だちのよいところも知り、みんなと仲良くし、協力していこうとする自主的・実践的な意欲を育てていきたい。

4 指導計画（全3時間）

次	時	学習活動	教師の支援	評価の観点	備考
1	1	学校の決まりから生活規律の大切さを知り、実践しようとする意欲をもとう。 ・振り返しカードをみながら学校の決まりを確認し、生活規律を理解、実践しようとする意欲をもつ。	・振り返しカードから、どうして決まりがあるのか話し合いをし、決まりの大切さ、必要性・内容を発表させたり、書かせたりする。 ・学校にも決まりがあることを確認させ、楽しく気持ちのいい学校生活をおくらせるようにする。	振り返しカードから自己反省し、今後の目標をたてることができたか。 ・生活規律についての理解ができたか。 <知識・理解> ・生活規律について実践しようとする気持ちがもてたか。 <自主的・実践的>	振り返しカードとワークシート
2	1	自分の良いところをみつけよう。 ・自分が頑張っているところやほめられている時のことを書く。	・自分がどこで、どんな時何をしているのか、考えさせる。 （学校、家、塾、地域の活動、部） ・頑張っているところや褒められているとき、どんな言葉をかけられているか考えさせる	・自分のよいところや頑張っているところをみつけることができたか。 <関・意・態>	ワークシート
昼休み 放課後		友達の頑張っているところやよいところを見つけて友達のワークシートに囲う。 ・クラス全員のよいと	・学級の一員として、学校行事、学習中、休み時間、清掃、給食、言葉づかいなどの様子を観察させ、友だちのよいところや頑	・クラス全員のよいところを見つけてあげることができたか。 <関・意・態>	ワークシート

		ころをみつけたり考えたりする。	張っているところを書かせる。		
2	2	<p>友だちのよいところをみつけ、もっと仲良くしていくための方法を考えよう。</p> <p>・友だちが学校や習い事で頑張っているところやよいところを知り、仲良くする方法を考える。</p>	<p>・友だちに書いてもらった自分のいいところを、みんなに発表させ、それぞれのよいところを認めさせる。</p> <p>・友だちの良いところや頑張っているところを知り、もっと仲よくしていくためには、どうすればよいか書かせ、発表させる。</p>	<p>・みんなのよいところを知り、認め合うことができたか。</p> <p><関・意・態></p> <p>・もっと仲良くするための方法を考えることができたか。</p> <p><技・表></p>	ワークシート

5 本時の活動


(1) 本時のねらい

学校のきまりを通して、規則正しい生活の大切さに気づかせ、実践しようとする意欲をもたせる。

(2) 授業仮説

振り返りカードを活用することにより、規律の意識付けができるとともに学校のきまりを守ろうとする意欲が育つであろう。

(3) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価
導 入	<p>1 振り返りカードをみて、決まりについて自分の生活のあり方に気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守っている ・挨拶や聞く態度はいつもやっている ・言葉遣いが悪い <p>2 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> きまりは、なぜひつようか考えよう。 </div> <p>3 学校にはどんな決まりがあるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下は走らない ・チャイムが鳴ったら席につこう ・授業中は静かにする ・順番に並ぶ <p>4 決まりの必要性について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下を走るとぶつかったりすべったりしてケガをする。 ・みんながバラバラに集まると集団活動やグループ活動ができない。 ・先生や友達の声が聞こえないから 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードをみて、自分なりの感想を持ち、発表できるようにさせる。 ・学校生活には決まりあることに気付かせる。 ・集団生活には決まりがあることに気付かせる。 ・全校朝会や学年朝会などいろいろなところで決まりがあることに気付かせる。 ・自由に発言させる。 ・ワークシートの①②を書かせる。 ・決まりがないと困ることなどを想起させる。 	<p>{ 関心・意欲・態度 }</p> <p>・振り返りカードをみて、生活規律について意識が高まってきたか。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>{ 思考・判断 }</p> <p>決まりの必要性や内容が理解できたか。</p>
展 開			

ま
と
め

- 5 書いたことを発表する。
- 6 学校の決まりをみんなで確かめる。
宜野湾小学校(よい子のおこないとみなり)



- 7 学習のまとめをする。
・ワークシートにわかったことや感想を書いて発表する。



- ・みんなに聞こえる声で発表させる。
- ・発表した大事なことを板書する。

- ・よいこのおこないとみなりから、学校のきまりをいくつか紹介して意識させる。
- 決まりについて
- ①内容
 - ②必要
 - ③守ることが理解できたか。
- 継続する姿勢をもたせる。



{自主的・実践的}
よりよい生活をするために、決まりの大切さがわかり、実践しようとする意欲が育ったか。

(4) 場の設定

黒板

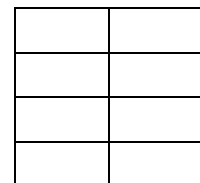
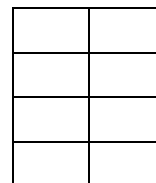
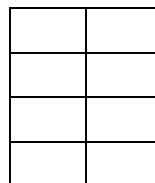
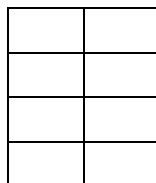
パワーポイント用の
スクリーン

導入時
は子どもたち



プロジェクター

展開時



(5) 板書計画

決まりよい生活についてかんがえよう
めあて

きまりはなぜひつようかかんがえよう。

学校のきまりにはどんなものがありますか。

- ・ ろうかは走らない。
- ・ チャイムが鳴ったらせきにつよう。
- ・ じゆぎよう中はしずかにする。
- ・ じゆんぱんにならぶ。
- ・ 先生のはなしをおしゃべりしないで
きく。


決まりはなぜありますか。

- ・ ろうかを走るとけがをするから。
- ・ 先生や友だちのこえがきこえないから。
- ・ みんながこまるから

- ・ いえのひとが
しんぱいす
る。
- ・ いろいろな人
がこまる。

学習のまとめ

- ・ きまりをまもる。
- ・ きまりがたくさん
ある。
- ・ きまりはひつよう



6 検証授業研究会

(1) 授業者の反省

- ① 今日の授業は、山場が2つあり1つ目は、導入で振り返りカードをみながら自分の行動を知ること。2つ目に 決まりについての意識をもってもらうことを考えてすすめた。学習内容をすすめながら、手の挙げ方、姿勢、発表の仕方、聞き方、一斉読み等細かいところにも再確認させながら学習することができた。
- ② 授業後の感想で、いつも整理整頓がなかなか出来てない子が、しっかりと自分をみつめ、「これからは、せいりせいとんをしたい。」と書いてあったので、決まりについての意識が高まっていることを感じた。
- ③ 今回の研究中に習得したパワーポイントを有効活用し、子どもたちの集中力を高めることができた。他の活用方法も（板書）工夫したい。

(2) 意見及び感想

- ① 子どもの感想から本時の学習のねらいは達成されている。
- ② 学級の雰囲気もよく、発表や聞く態度など、基本的なことがしっかりできていた。
- ③ 子どもとのレポートがとれ、資料にある学級通信でも保護者とのつながりが大事にされている。
- ④ 子どもたちの反応を大事にしながら、学習をうまく展開された授業であった。
- ⑤ 子どもの発言に対し認め、ほめる言葉が多かった。
- ⑥ 子供が発表している時は、しっかり聞き板書したほうがよい。
- ⑦ 導入時にアンケートの結果をみせたら、さらにねらいにせまれる授業になったのではないが。

(3) 指導助言（中頭教育事務所巡回教育相談員 玉城 時子）

子供は教師を反映させる鏡であるといわれる。教師のもつ雰囲気、子供たちへの関わりが一人ひとりの子どもが参加する授業、わかる授業、喜びのある授業である。

今日の授業は、先生自身が心にゆとりをもって楽しむ授業であり子供たちも楽しく参加した授業であった。わかりやすい言葉で個々の児童に出番を与え、ほめ言葉の多い授業であった。

聞く態度がしっかりしていて教師や友だちの発表をよく聞き、決まりに対する必要性、守ることの大切さを二年生なりに考え理解できたと思う。聞く態度がしっかり身についているということは全ての教育活動の基盤であり他の学習も充実するであろう。

ご指導を受けた板書の件は今後の改善策として欲しい。

教師の褒め言葉は、子供を発動させる。幸せな子供たちである。



学校の決まりの確認



決まりの大切さや
必要性の発表



今日の学習から学んだ
ことを発表

仮説の検証

1 具体仮説1の検証

基本的な生活習慣形成の場において、振り返りカードを活用し、生活規律の自己評価・理解・実践・次の目標設定することにより自主的・実践的な意欲が育つであろう。

【児童の振り返りカードより】

振り返りカードは、学校のよいこのおこないとみなりから学級に必要な項目を抽出し、アンケートをとった。

	生活規律アンケート	事 前			事 後		
		8 1	1 6	3	8 8	9	3
①	8時10分までに登校している	8 1	1 6	3	8 8	9	3
②	ベルの合図を守って、静かに待つことができる	6 9	3 1	0	6 9	3 1	0
③	履物は、靴箱にきちんと整頓できる	8 7	7	6	9 4	6	0
④	机の中やロッカーは整理できる	3 4	5 0	1 6	5 3	4 7	0
⑤	使った道具はきちんと片付けることができる	8 1	5	1 4	8 8	6	6
⑥	すききらいなく食べている	3 1	4 7	2 2	3 1	6 3	6
⑦	朝ご飯を食べている	9 1	6	3	9 1	6	3
	評 価	いつも やって いる	ときど きやっ ている	あまり やって いない	いつも やって いる	ときど きやっ ている	あまり やって いない

表5 生活規律アンケートについて

「生活規律」に関して、児童に自己評価をしてもらったところ、図1のような結果になった。

①の項目については、「いつもやっている」が81%から88%に増加している。早登校するための、友だちの実践をみんなで確認したので、とりいれているのではないかと思われる。③④⑤の項目では、「いつもやっている」が、それぞれ94%、53%、88%となっている。物の片付け方や整理整頓の仕方がわかり、もとの場所に戻したり、どうすることが一番よいのか理解し実践していると考えられる。⑥の項目については、「いつもやっている」が増加している。食に関する意識が高まり、好き嫌いせず何でも頑張って食べていると思われる。

このように、表5から学校の決まりを通して生活規律は、7項目中3項目は「ときどきやっている」「いつもやっている」をあわせると100%で、他の4項目は90%以上の結果が出ている。生活規律の定着ができつつあると考えられる。

【児童の感想より】

児童から出た決まりの必要性
(考えた事全て記入させてみた)

ケガや事故に合うから(23名)
決まりがないとみんなが困るから決まりは大切なんだって思いました。(6名)
親、先生、お家の人心配するから(10名)
先生からの大事な話が聞けない(5名)

決まりの大切さに
気づき実践しようとする意欲がみられた。

(Y子)今日の勉強でいろいろわかりました。だから、これからは決まりを守るようにします。
(Y子)いつも学校の決まりを守ろうと思いました。
(I男)今日のお勉強は学校の決まりをしました。ぼくは、ろうかを走りません。
(M男)はきものやくつをきちんとくつばこにかたづけます。
(N子)きまりは、ちゃんと守り、人がケガをしないようにします。
(R子)みんながそれぞれ決まりを守っているからうれしいです。

学校生活の決まりを通して、学校にはたくさんの決まりがあることやなぜ決まりがあるのかを、理解できたようである。そして、「自分はこれから～したい」と実践していこうとする意欲や態度がみられた。

このことから、学校生活の決まりを通して、学校には決まりがあることやなぜきまりがあるのか、決まりは必要であることなどを理解でき、基本的な生活規律として守っていこうとする自主的・実践的な意欲が育ったと考えることができる。

【学級通信より】

生活規律を家庭と連携を図るために、学級通信を発行し、検証授業に向けての事前授業の様子から検証授業後のクラスの様子を紹介し、保護者の感想を書いてもらった。

Iさん・・・最近人の話を聞かない、忘れ物が多い事なので叱ってばかりです。基本的な事って一番難しいですね

Nさん・・・最近だらだら食べていて朝ごはんをきれいに全部食べて「食べたよ」と気持ちよくいうわが子をみて「アレ?!変わったなッ」と思っていたら、アンケートのおかげだったんですね。ありがとございます。

Kさん・・・家でも「凡事徹底」の話をしました。3学期が始まって始業式の時、校長先生が話

していたアと言ってどういう意味？と聞いてきたので説明して、日頃家でも話していたことなので「そうなんだア」とつぶやいていました。

Uさん・・・振り返りカードの がいまいちできないと本人は自覚しているようです。私は⑨もあやし～と思うのですが。でも・・・今のうちだな～どうにかするならってつくづく思った幸いです。

Aさん・・・仕事で毎月、授業参観に行くことが出来なかったので、学級通信を通して子どもたちの学校生活態度、先生の子どもたちに対する考えが見られるところがよかったと思いました。先生との信頼関係が築けたと思いました。そして、たくさんの親の意見も聞けてプラスになりました。

Sさん・・・学級通信を通して、子どもたちの学校での過ごし方を知ることができて、とても楽しく充実しました。学級通信は、子どもを中心として学校と家庭を結びつける素晴らしいものだと思います。子どものよいところを引き出し、それを伸ばしてあげることの大切さや人として、相手を尊重する心を子どもといっしょになって、親の私も学んだような気がします。

3組ってさいこう

学級通信 2 - 3

1/17(木) 検証授業をしました。

基本的な生活習慣の定着に向けて、生活規律の大切さを学習させました。たくさんの先生方に見られて、子供たちはとても緊張し普段なら笑ってくれるところも思ったほど反応がなく、焦ってしまったところもありました。でも、一生懸命聞いたり発表してくれたりする姿には、やっぱり2年3組ってさいこうと思いました。家庭で教えられていることをいかに学校で発揮できるか。また、学校で勉強したことを学校以外でいかに発揮させられるか。私も2児の母親としてやるべきことや考えさせられることがありました。

生活習慣については、家庭の協力がとても大切ですので習慣化できるまで一緒に頑張っていきましょう。(時間がかかります。根気強く、励ましながら・・・)

また、Nさんからの子供を動かすテクニックについても教えて欲しいというのがありましたので、こうしたらうちの子はやってくれました。という体験をぜひお知らせください。2年3組では、しばらくの間、次のアンケートを毎日とってもらっています。

①自分からすすんで挨拶していますか。	⑦最後まで話をきくことができますか。
②8時10分までに登校していますか。	⑧はきものはくつばこに整頓していますか。
③ペルの合図を守って静かに待つことができますか。	⑨机やロッカーの中は整理していますか。
	⑩使った道具は片付けていますか。
④ていねいな言葉遣いができていますか。 (オアシス運動)	⑪給食は好き嫌いなく食べていますか。
⑤さんづけでよんでいますか。	⑫朝ごはんは食べていますか。
⑥話をしている人の顔を見て聞いていますか。	

家庭より

サイン(印鑑可)

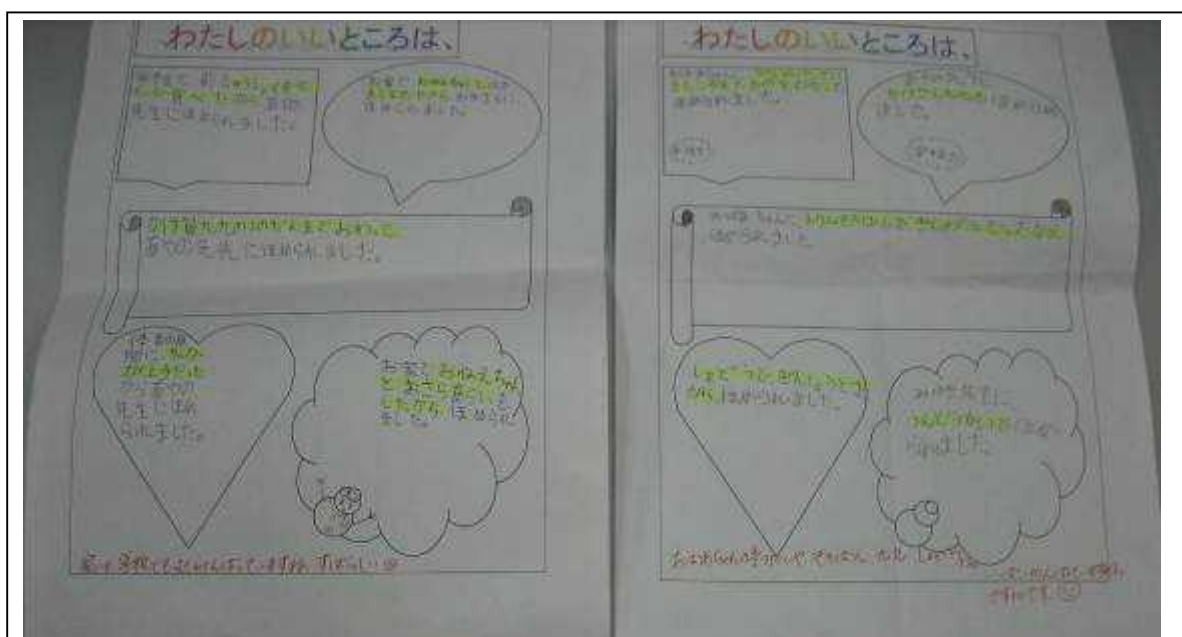
学級通信の中に「家庭より」というコーナーを作り、自由に書いてもらった。すると記事に関することや家庭での子供の様子、親子の会話等があり、それを学級通信に紹介することにより保護者同士の情報交換にもなり担任とだけのコミュニケーションでなく、保護者同士のつながりにもなっていたことが保護者の声からも知ることができた。他にも、「楽しかった」、「真っ先に読んだ」、「授業参観より学級の様子がよくわかる」、「学級担任との信頼関係が築けた」など保護者からの感想がたくさん寄せられ家庭との連携が深まったと思われる。

2 具体仮説 の検証

望ましい人間関係の育成の場において、ワークシートを活用し自分や友だちの良さに気づき、認め合うことにより、仲良くしようとする態度が育つであろう。

一次1時・・・自分の良いところを見つける授業

【児童のワークシートより】



- Y子 ・わたしは、お母さんに「スーパーに行って、おこのみやきのざいりょうをかってきて」と言われ、買いに行ったのでほめられました。
- ・いえのトイレそうじをしてほめられました。
 - ・おねえちゃんに「けいたいをとって」といわれて、とってあげたらほめられました。
 - ・お家でじゅんぴがはやいときに、お母さんから「きょうは、はやいね」とほめられました。

全員が自分のよいところやほめられているところを書くことができていた。ほめられている場面や感謝されている場面も、学習時や学校行事・塾・お手伝い・係り・当番などさまざまであった。そして、ほめてくれる人も、学校の先生、家の人、塾の先生、部活の先生、友だちなどいろいろな人たちが登場していた。

自分のよいところや感謝されているところ、頑張っているところを書かせることでこれまでの自分自身について認識し、再確認しながら自分自身のよさを改めて実感したり、自分のことを見直していることがわかった。

【児童の感想より】

- R男 僕は、自分のいいところがこんなにたくさんあるとは思いませんでした。いいところをもっともっとつくりたいです。
- N子 こんなに自分のいいところがあるとは、知らなかった。10こいじょうありました。
- Y子 自分がこんなにいいところがあるのをはじめて知りました。こんなにほめられているのも知りました。
- K男 自分のいいところをかきました。また、ほめられるといいです。
- R男 いいところがいっぱいあったので、ほめられました。とってもうれしかったです。
- A子 わたしは、ほめられていることをかきました。いっぱいありました。
- H男 いいところをいっぱいかきました。こんなにいいところがあったことをはじめて知りました。
- N子 さいしょは、2つしかかけなかったけど、あとから5つにふえました。うれしかったです。
- S男 自分のいいところがわからなかったけど、きょうのじゅぎょうでわかりました。いがいとすくなかったけど、見つけることができてよかったです。
- H子 「わたしのいいところ」を見つけるために、時間がかかったけど1つ思い出したら、次々と思い出せました。たのしかったです。

子どもたちは、自分のよいところを見つけたことで、「自分にはこんなにいいところがいっぱいあったんだ」、「もっといいところをつくりたい」など自分に自信を持つことができ、自分自身をもっと高めていこうとする意欲と自己肯定感を持つことができたと思われる。

二次第2・・・友だちの良いところを見つける授業

【振り返りカードから】(学校のきまりからの人間関係)

表6 人間関係のアンケート

人間関係のアンケート		事 前			事 後		
①	自分からすすんであいさつができる	56	41	3	75	25	0
②	ていねいな言葉づかいができる	53	44	3	44	56	0
③	さんづけで呼ぶことができる	3	56	41	19	66	15
④	話をしている人の顔を見て聞くことができる	69	28	3	69	31	0
⑤	最後まで話を聞くことができる	78	19	3	81	19	0
	評 価	いつも やって いる	ときど きやっ ている	あまり やって いない	いつも やって いる	ときど きやっ ている	あまり やって いない

【児童のワークシートより】

項目①②④⑤は、「ときどきやっている」、「いつもやっている」と答えた児童が100%になっている。自分自身のおこないを意識し、また、友だちに対する態度も、意識してきた結果ではないかと考えられる。

項目②については、事前のアンケートのとりかたに問題があったのではないかとと思われる。

項目③の「さんづけでよぶことができる」については、事前では「ときどきやっている」、「いつもやっている」をあわせると59%だったが、事後には85%になった。やはり、さんづけでよんであげようと思う気持ちが変わっている。

表6から、「いつもやっている」、「ときどきやっている」をあわせると、全て90%以上となりよりよい友だち関係を築こうとする意識をもつことができたと考えられる。

【児童のワークシートより】

	いいところ	名前	いいところ
A男	いつもやさしいね いつもいろんなところを頑張っている	Y子	挨拶をする やさしい
B男	言葉遣いが良くなった いつもみんなを盛り上げる	X子	リーダーを頑張っている 発表をよくする

事前学習で、自分のいいところを見つけてきているので、いろいろな場面の一人ひとりのいいところを見つけて書くことができていた。学習面や生活面、係り、当番活動、性格などよく観察しているところを見ることができた。全員が友だちのいいところを書くことができていことから、友だちのよさを知ることができたといえる。

【児童の感想より】

Y子 いっぱい私のいいところがあったなんてびっくりしました。31名が私のいいところを書いてくれたのでとってもうれしかったです。

K男 ぼくは、31人にぼくのいいところをいっぱい見つけてもらってうれしかったです。

W子 わたしは、みんなに書いてもらったものを見て、元気がでてきました。みなさん書いてくれてありがとうございます。

M子 こんなにいいところがたくさんあるなんてはじめて知りました。K男さんに人の心がわかっていると書かれていたのでとってもうれしかったです。T男さんもわたしにあまりしゃべらないのによく見ているんだなと思いました。

K男 ぼくは、いいところがないと思っていたけど、みんなはいいところをいっぱい書いてくれたからうれしかったです

これらの児童の感想からも言えるように、自分の想像以上に友だちからよいところをいっぱい書いてもらったことで、「びっくりした」とか「こんなふうに自分の事をみてくれているのか」、「うれしい」、「また、友だちのよいところを見つけたい」、「みつけてくれて感謝の気持ち」等、一人ひとりが明るくなった。そして、これからも友だちのよいところをみつけていきたいという気持ちもあらわれている。

みんなが仲良くしていくためには、どうすればよいかという考えも全員が1つ以上書くことができた。

このことから、ワークシートを活用することで自分のよさを知り、友だちのよさもわかり、仲良くする方法や一人ひとりはどうすればいいかということを考えることができたといえる。

Ⅷ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 生活規律のアンケートを実施し、決まりの必要性を理解させることで自分の望ましいあり方について考え、実践しようとする意欲が出てきた。
- (2) 自分の良いところをみつけさせることで自己肯定感が高まり、相互のよいところを書かす事で、互いに認め合い仲良くしようとする人間関係ができるようになった。
- (3) 学級通信を発行することにより、学校や学級の様子が保護者に伝わり親子、学級担任と保護者、また保護者同士のよりよい人間関係を築くことができた。

2 今後の課題

- (1) 自己肯定感をもたせ、互いによさを認め合い発揮し合える学級活動の工夫。
- (2) 友だちとよりよい関係を築くための呼び方について、継続的指導。
- (3) アンケートの評価方法

3 おわりに

学級活動を研究するにあたり、範囲が広すぎてテーマや内容を絞るのに大変苦労しました。しかし研究を進めていく中で、主事の先生方からのご指導ご助言で絞り込むことができ研究を進めることができました。

この研究を通して、子ども達は決まりを意識しながら学校生活を楽しんでいる様子がみられ、保護者とは、私の子どもに対する姿勢が伝わると同時に保護者の気持ちや学級に対する見方などが手に取るように見え、子ども、担任、保護者とお互い振り返りながら共に成長できたと思えました。子どもが変わり、親も変わりそして、私自身も新しい発見がたくさんあった大変充実した半年間でした。

思い起こせば研究当初からの悩み、戸惑い、つまずきも指導講師の玉城時子先生の親切丁寧なご指導ご助言で乗り越えられ、また、研修係長の田場勝先生には発表会や検証授業前の資料の検討に何度も時間作ってご指導いただき、大変感謝しております。どうも有難うございました。

このような研究の機会を与えてくださいました宜野湾市教育長の普天間朝光先生、当研究所所長の長崎光義先生、いつも温かく受け入れ相談にも応じてくださった宜野湾小学校校長宮城茂雄先生、並びにご理解とご協力をいただきました宮城直子教頭先生、宜野湾小学校職員の皆様、はごろも学習センターの皆様にも心より感謝申し上げます。どうも有難うございました。

最後に、同研究員の平良ゆかり先生、玉那覇秀樹先生には研究に関するだけでなく、研究所の生活でもいろいろ助けていただきました。大変ありがとうございました。

<主な参考文献>

・高階怜治編	『子ども力の育成第2巻』	教育開発研究所	2007年
・江川玫成編	『特別活動の理論と方法』改訂版	学芸図書	2006年
・平井文雄編	『新しい学級経営の条件』	学陽書房	2000年
・織井道夫	『新版小学校学級担任必携』	文京書院	1993年
・成田國男	『家庭との協力を生かす生活習慣の指導』	明治図書	1988年